



車内の金城学院大学

9限目

「西洋音楽史」

「ベートーヴェンの『運命』は、実は励ましソング？」

[音楽鑑賞入門]

ベートーヴェンの『運命』といえば、第1楽章の「ジャジャジャジャー」があまりに有名。そのイメージから一般には重苦しく悲劇的な曲に捉えられがちですが、その曲調は第2楽章、第3楽章で変化し、「勝利の凱歌」と呼ばれる第4楽章で壮大なフィナーレを迎えます。幼少時代からの苦難や、難聴という音楽家として絶望的な“運命”に遭いながらも、それを乗り越えようとしたベートーヴェン。彼が最も表現したかったのは、悲劇的な運命の訪れではなく、運命に立ち向かうための勇気や希望だったのでしょ

う。本物に触れ、感動する力を養う。それが人間科学部 芸術・芸術療法学科。

強く、優しく。



金城学院大学